

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
日本工学院八王子専門学校		1987/3/27	千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人片柳学園		1956/7/10	千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
工業	工科技術専門課程	応用生物学科			平成21年文部科学省認定	-																					
学科の目的	感染症などに脅かされる事が現実となり、その対策として必要とされるバイオテクノロジーを基盤とする分野において、技術者としての実力を備えた社会の中堅たる人材を養成する。特に医薬品・化粧品・食品を始めとした健康・衛生関連分野での製造・品質管理などに携わる人材を育成し、実務に関する知識、技術を教授する為、企業との連携を密にする事により実践的かつ専門的な能力を有する人材を育成する事を目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,800	870		1,110																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人		68人	2人	3人	3人	6人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																						
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月22日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月4日 ■学年末:3月22日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、プロジェクト活動(ボランティア活動、長期インターンシップ) ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) AGC(株)、ニプロファーマ(株)、(株)ミートコンパニオン、ケミコスクリエーションズ(株)、公営事業(株) 他 ■就職指導内容 合同企業説明会、個別企業説明会、業界研究会、内定者体験談会など ■卒業生数 : 37 人 ■就職希望者数 : 25 人 ■就職者数 : 25 人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 69.2 % ■その他 ・東京工科大学編入学: 7人 ・他大学編入学: 1人 ・日本工学院八王子専門学校 マンガ・アニメーション科進学: 1人 ・日本工学院専門学校進学 機械設計科: 1人 (令和 2 年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品質管理検定4級</td> <td>③</td> <td>34人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>有機溶剤作業主任者</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 中級バイオ技術者認定試験において成績優秀者に2名選出(3年連続)。授業内での解説や対策講座等を実施し指導をしている。			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	品質管理検定4級	③	34人	33人	中級バイオ技術者認定試験	③	40人	35人	有機溶剤作業主任者	③	27人	26人	ビジネス能力検定3級	③	31人	28人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
品質管理検定4級	③	34人	33人																								
中級バイオ技術者認定試験	③	40人	35人																								
有機溶剤作業主任者	③	27人	26人																								
ビジネス能力検定3級	③	31人	28人																								

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 13% (休学者1名含まず) 令和2年4月1日時点において、在学者80名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者70名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養・怪我治療、就職、進路変更、経済的理由 等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・片柳学園入学学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
<p>当該学科のホームページ URL</p>	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業が必要とする人材を育成する為に、企業へのヒアリングやアンケートを通して実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。教育課程編成委員会への報告も行い、常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
澤井 孝行	八王子市農業協同組合(JA八王子) 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
富岡 達矢	株式会社 ミートコンパニオン 執行役員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
武宮 志昌	トワミルベース 合同会社 代表	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
田中 秀幸	日本工学院八王子専門学校 学科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (前期・後期)本年度は新型コロナウイルス感染症により実施方法をオンライン併用する等して行った。

(開催日時(実績))

第1回 2020年11月2日(木) 14:00～16:00

第2回 2021年3月9日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現在の新卒者のマネジメントで苦慮することで国語力の欠落というのがある。また、すぐにネガティブになってしまい教育もしづらい事が、さらに育成を妨げているとの提言を受け、チームでの取り組みを強化し「連携して問題に立ち向かい、ポジティブに取り組む」という練習を重ねている。これによりコミュニケーション能力を上げてもらっている。またPCスキルに関しても提言があり、オンライン授業もスタートしていることから学科でのWord、Excel、Powerpoint等のサポートを行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医薬品、食品、環境、バイオテクノロジー、農業分野に関する実践的な実習や演習を行うために、各分野で必要となる知識、技術、資格を有している企業から現場での作業に則した形での実習の設計を行う。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施を試み、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

医薬品・食品分野において実際に現場見学なども含めて実施する。それを受け実験では項目の設定についてアドバイスをもらい、現場で用いられる基準などを使用し実験結果などに関しても管理指標となるような数値を利用して測定できているかなども評価対象にすることとし、評価基準に対してのグレード付も連携企業とともに作成することとした。また、食肉取扱い企業や酒類製造企業などより最新の食品衛生法、HACCPなどについても取り組むよう連携を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な2科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について学びます。	楯の川酒造(株)
植物バイオテクノロジー実験	植物組織特有の取扱い方や植物の構造を利用した実験手法を習得する事を目的とする。	河合農園

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「応用生物学科 専任教員研修会：化粧品業界の現状と材料科学」

(連携企業等：三好化成株式会社 比留間 太貴氏)

期間：2020年10月5日(月)13:00～16:00

対象：応用生物学科専任教員

化粧品業界は医薬品に含まれるものの、規制などがそれほど厳しくなく、産業規模としてもさほど大きくない。比較をするならば家電メーカーのヤマダホームズの売り上げと業界規模が同等となり、非常にニッチな産業でもある。技術的にも化学メーカーの応用的な転用も多い。また、このコロナ禍でオンラインでの販売が中心となりメイキャップ化粧品はマスク着用により販売不振になっている。世界的にみても外出自粛が多く輸出も苦しい状況になっている。その中でも高付加価値のものを求めるリクエストは続いているとの事で、表面処理粉体等の需要は高いとの事であった。さらに、そこには物理化学的特性を生かした技術がちりばめられており、華やかなイメージのメイキャップ化粧品であるが裏には科学的裏付けがしっかりあり、その原理等について解説もいただいた。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「製造業におけるワークスタイル変革」

(連携企業等:東洋経済新報社主催 田中公康 講師、川崎慎也 講師、森本 信次)

期間:2021年3月22日(月)14:00～15:40

対象:応用生物学科専任教員

ポストコロナ時代において働き方改革が叫ばれテレワークやリモートワークがすすんでいるが、一方で製造業は最もリモートワークとマッチしづらい職種・職業である。また、同様の理由でいままでもなかなかICT化などが導入されずワークスタイルの変革が見られなかった。しかし、完全移行はできないものの、ICT化を進める事で時短勤務や時差通勤等を推進することも可能となり、ワークスタイルの変化を受け入れる事も可能になる事例を紹介される。また、これらの取り組みによりセキュアに仕事をする環境も同時に設定することで今までに危機にさらされ続けていた情報漏洩(個人情報や特許情報、社内機密情報等)が防げるようになるとの事であった。AWS等の仮想デスクトップなどをいれたりクラウドサービスを利用することで工場をまたいでも同じインターフェイスで作業できる等、生産性向上にもつながるとの事であった。

研修名:STEAM教育シンポジウム「日本の学校でSTEAM教育をどう展開するか」

(連携企業等:東京大学大学院情報学環山内研究室 パネラー(杉山昂平氏、板倉寛氏、堀田龍也氏))

期間:2021年2月20日(金)13:00～15:00)

対象:応用生物学科専任教員

「STEAM教育とは何か」杉山昂平氏これまでに唱えられてきたSTEM教育にArtsを加える意義やその効果について説明があり、STEAM教育の例や期待される効果について紹介があった。

「新学習指導要領とSTEAM教育」板倉寛氏

PISA2018により日本の15歳児の読解力が低下していることが示されたことより、文部科学省の新学習指導要領に組み込まれた読解力の向上のための指導や、GIGA構想による情報端末の利用による学習方法の変化などにも言及があった。

「情報教育とSTEAM教育」堀田龍也氏

情報教育とは情報活用能力の育成するであり、STEAM教育の基礎となる教育であるとの話のあと、情報端末を活用したSTEAM教育のあり方について事例を交えてその実施方法に関する提案があった。

研修名「応用生物学科 専任・兼任教員研修」

(連携企業等:東洋経済新報社、東京大学大学院情報学環山内研究室、講師 田中学科長・森内主任)

期間:2021年3月30日10:00～12:00

対象:応用生物学科 学科専任教員・兼任教員

田中学科長より「製造業におけるワークスタイル変革」について、森内主任より「日本の学校でSTEAM教育をどう展開するか」について受けた研修を学科版へアレンジし、応用生物学科に関わる全教員へのフィードバックを行った。特に両方のクロスポイントになったITスキルに関してはGIGAスクール構想や就業現場がオンライン化したりAIが入っていくので、より一層リテラシーとしてのセキュアな考え方や作業の仕方を理解するなどを共通認識としてもらった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「医薬品試験用水の製造と管理」

(連携企業等:メルク株式会社)

期間:2021年7月7日(水)15:00~16:30

対象:応用生物学科専任教員

バイオテクノロジーの実験や本学科の実習において根幹を支える「水」について医薬品試験用水という非常に厳しい基準での取り扱いについて学び、医薬・食品・化粧品分野への応用等の技術を向上させる。また管理技術も学び、日本薬局方における試験用水の規格や各種試験に及ぼす試験用水の水質の影響、またそれらの精製方法について理解を深める事を目的とし研修にのぞむ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「自律的に学ぶ文化醸成とイノベティブな組織づくり」

(連携企業等:現在調整中)

期間:現在調整中

対象:日本工学院八王子専門学校教職員(応用生物学科専任教員)

企業で行われているイノベティブな組織づくりを学ぶことにより、学生に向けて社会が求める人材を示す事や実際に自律的に学習する習慣を身に付けさせることを目的とする。さらにそこにデジタル化が関わってくるため学生が学ぶべきITスキルや考え方、その具体策やその課題について研修を受ける事でより学生に対して社会が求める人材になるための指導力を向上させることを目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっ

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ICT教育を全カレッジ全学科の必須の基盤教育として推進していく。これを実現していくために、東京工科大学と連携して教育内容のIT化を推進していく。教育方法のIT化の推進を実現するため、今年度においては、特にICTを活用した先進的で分かり易い教材・教育方法等の開発・実践を進める。
 コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境を順次整備を進めている。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、引き続き感染防止対策に万全を尽くしていく。
 教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。
 地域連携・高専大連携、国際連携等を積極的に推進していく。
 募集活動においては、オンライン面談(実施済み)・オンライン出願なども実施していく。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の修学支援新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を実施していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和3年7月31日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和2年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(工技術専門課程応用生物学科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	専門教育を生かしたキャリアデザインを考えます。	1・後	30	2	○			○	○		
2	○			学習技法	本学科で必要とされる、習得すべき学習技法を学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
3		○		フレッシュマンセミナー	本学科で学ぶ意義を理解します。	1・前	15	1	○			○	○		
4		○		ビジネススキル	社会人として必要とされるビジネススキルを磨きます。	1・後	15	1	○			○	○		
5		○		スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	1・通	30	1			○	○		○	
6	○			バイオ実験の方法と考え方	実験の基本的注意事項について学びます。レポートや報告書の作成方法について学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
7	○			基礎生物学	生命の成り立ちなどの理解に必要な生物学の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○
8	○			基礎化学	物質の性質や化学構造、化学反応式などの基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
9	○			基礎数学	バイオ実験に必要な数値処理を理解する為の数学的手法の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○
10	○			分析化学	バイオ実験に必要な溶液の濃度表記法や酸・塩基の考え方、緩衝液について学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
11	○			微生物学	微生物の種類、構造、性質、培養法などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○
12	○			応用微生物学	環境衛生や食品衛生、医薬品生産など様々な産業における微生物の利用法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○
13	○			有機化学	生命反応の理解に必要な有機化学の構造と性質および反応の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
14	○			生命有機化学	有機化学で学んだ内容を活かして、生体分子の機能・反応・役割について学びます。	1・後	30	2	○			○		○	
15	○			物質の生化学	生命機能の維持に関わる糖質、アミノ酸、脂質などの構造と性質を学びます。	1・後	30	2	○			○		○	
16	○			酵素と代謝の生化学	生命機能の維持に関わる代謝系や光合成、生体調節の仕組みを学びます。	1・後	30	2	○			○		○	
17	○			遺伝子工学	遺伝子操作技術を学び、有用物質などを大量に生産する方法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○	
18	○			統計学	医薬品・食品分野に関する実験において必要となるデータ処理法とその考え方について学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
19	○			基礎バイオ実験	バイオ実験において必要となる生物・化学実験の基礎知識と基本操作を習得します。	1・前	120	4			○	○		○	
20	○			生化学実験	生物の重要な構成要素であるタンパク質と酵素の取り扱いに関わる実験技術を習得します。	1・前	120	4			○	○		○	
21	○			微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について習得します。	1・後	120	4			○	○			○
22	○			遺伝子組換え実験	生物からのDNA抽出法など遺伝子工学技術の基礎を習得します。	1・後	120	4			○	○		○	
23		○		インターンシップ1	インターンシップに参加して実践力を養います。	1・通	30	1			○		○		○
24		○		キャリアデザイン2	専門技術・知識を生かした活躍の場を手に入れる為のマナーや心構えを身につけます。	2・前	15	1	○			○		○	
25		○		プレゼンテーション	様々な場面で必要とされる、プレゼンテーション能力を磨きます。	2・前	15	1	○			○		○	
26		○		スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	2・通	30	1			○	○			○
27	○			分子細胞生物学	生物の基本単位である細胞と細胞内分子との協調理解によって生命現象の本質を学びます。	2・前	30	2	○			○		○	
28	○			植物バイオテクノロジー	植物特有の構造を知り、植物を用いたバイオテクノロジーについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○	

29	○		化粧品科学	化粧品を支える科学技術に関して全般的に学び、化粧品を総合的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
30	○		衛生学	健康の維持、増進、疾病の予防・発見に向けた様々な取り組みについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
31	○		免疫学入門	生体の持つ防御機能である免疫の仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
32	○		機器分析化学	バイオ実験で用いる分析機器の測定原理や分析方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
33	○		生理学	ヒトの体のつくりや形、仕組みを学ぶとともに、器官、組織、細胞と視点を小さくしながら学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
34	○		薬の作用	体内に入った薬が病気に効く仕組みや、薬の有害作用と毒作用について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
35	○		食品化学	食品に含まれる栄養素とその機能について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
36	○		食品分析	食品中の栄養成分の測定法や食品の検査法とその原理について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
37		○	品質管理	品質管理に対する知識を習得すると共に、品質管理検定試験に向けた対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
38		○	バイオテクノロジー	生化学、微生物学、遺伝子工学、分子生物学などバイオテクノロジーを総論的に学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
39	○		生体高分子化学実験	タンパク質の取り扱いや動物細胞の培養などに関する技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
40	○		植物バイオテクノロジー実験	植物特有の取り扱い方や、植物の構造を利用した実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○			○	○
41	○		分子生物学実験	遺伝子操作や遺伝子発現解析実験など分子生物学分野の実験技術を習得します。	2・通	120	4			○	○		○		
42	○		医薬品実験	医薬品の分析技術や研究・開発にかかる様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
43	○		食品実験	食品の分析技術や食品の安全を守るための様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
44	○		化粧品実験	化粧品の製造技術や成分の分析技術など様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○			○	
45	○		環境・衛生学実験	作業環境や医薬品・食品の品質管理に関わる環境検査・衛生検査法を習得します。	2・後	60	2			○	○		○		
46		○	実験動物学実験	実験動物の取り扱いや生命倫理について学びます。	2・通	30	1			○	○		○		
47		○	インターンシップ2	インターンシップに参加して実践力を養います。	2・通	30	1			○		○		○	
合計			47科目			1980時間(95単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1710時間(82単位)および選択科目90時間(6単位)以上取得し、合計1800時間(88単位)以上取得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週